

M E G U R U P R O J E C T

ひとりじゃ無理でも、 地域なら、できる。

ゼロから、おまつりを開くまでのロードマップ

マルト 秋栢 由香利

毎年、あのおまつりに行く。

子どもが笑っている。知らない人と目が合って、会釈する。

いいなあ、と思う。

でも、「**自分がやる側になる**」とは、思わない。

それは、なぜでしょうか。

この資料は、その答えをいっしょに探すために作りました。

秋枥 由香利

マルト 代表／イベントプランナー
愛知県一宮市

24歳、3人の子どもを育てながら、
フットサルチームを立ち上げました。
初心者のママさんチームでした。

- 国内大手生命保険会社に11年。入社2年でマネージャー。イベントから採用と新規契約が生まれる仕組みをつくり、**社内の教材になりました**
- フットサルチームを**5年で日本リーグ**へ。日本選手権3位。集客はリーグ最高水準
- **日本フットサル連盟 初の女性理事を2期**
- 中京テレビ「キャッチ！」で密着放送／名古屋グランパス「あいちフットボールフレンズ」
- FMいちのみやで月1～2回の番組を約2年／スタジアム・イベントのMC
- なでしこ日本コンテスト2022 ミセスの部 全国1位

この資料は、読むだけの資料ではありません。 ん。

このあと、問いかけのページが4つあります。

手を止めて、書き出してみてください。

書けた言葉が、そのまま **あなたの企画の芯**になります。

WORK 1

なぜ、イベントをやってみたいのですか。

- ☐ 子どもに、地元の思い出をつくりたい
- ☐ 近所に知り合いを増やしたい
- ☐ 子育てが落ち着いて、何か始めたい
- ☐ 会社の仕事以外に、自分の名前で行きたい
- ☐ 昔から、幹事をやるのが好き
- ☐ 同じ思いの仲間と出たい
- ☐ 高齢の方が外に出るきっかけをつくりたい
- ☐ 地域のお店どうしをつなげたい
- ☐ 自分の子どもの、発表の場をつくりたい
- ☐ 「ありがとう」と言われたい
- ☐ 自分の店を、もっと知ってほしい
- ☐ 商店街に、人を呼び戻したい
- ☐ 誰かの役に立っている実感がほしい
- ☐ 人が集まる場が、もともと好き
- ☐ 地元に恩返しをしたい
- ☐ 子どもに、働く大人の姿を見せたい
- ☐ 自分の企画が形になるのを見たい
- ☐ いつか、イベント運営を仕事にしたい
- ☐ 地域の課題を、自分ごとで動かしたい
- ☐ なんとなく、やってみたい

当てはまるものに、いくつでも印をつけてください。「なんとなく」で大丈夫です。

W O R K 2

その日、誰に、どんな顔をしていてほしいですか。

ひとりだけ、顔を思い浮かべて書いてください。

(例：いつもひとりで散歩しているあのおばあちゃんに、笑っていてほしい)

ここで「みんな」と書くと、企画はぼやけます。ひとりに絞った企画ほど、結果的に多くの人が来ます。

WORK 3

これまで、何をしてきましたか。
そして、どこで止まりましたか。

調べた／誰かに相談した／場所を見に行った／何もしていない —— どれでも構いません。

「何もしていない」も、立派な答えです。止まった場所が分かれば、次の一歩が決まります。

W O R K 4

開催を100%とすると、いまは何%ですか。
足りない分は、何だと思いますか。

% / 足りないもの：

多くの方が「10%くらい」と答えます。そして足りないものに「お金」「人脈」「経験」と書きます。
そのうち2つは、**思い込み**かもしれません。次のページから、その話をします。

C H A P T E R 1

イベントが開けない 3つの理由

やる気がないからでも、才能がないからでもありません。

お金の集め方を、 誰も教えてくれない。

「協賛＝お願いしてもらいもの」
だと思っている

頭を下げてお金をもらう、という絵が浮かぶので、最初の
一歩が重くなります。

自分が何を返せるかを、
考えたことがない

協賛は寄付ではありません。相手に渡せるものを先に決める
だけで、話はまったく変わります。

だから「お金がないからできない」で止まります。
——でも、お金は集めるものではなく、交換するものです。

「行政や、大きな団体がやるもの」 だと思い込んでいる。

自分がやっていいと 思っていない

肩書きも、組織も、前例もない。だから「自分には資格がない」と感じてしまいます。

失敗したときの 責任が怖い

何かあったら、という不安。これは正しい感覚です。**だからこそ、先に学べば済む話です。**

実際は、10～15店の小さなマルシェから始められます。

—— 街の、小さなお祭り。それで十分です。

ひとりで、 やろうとしている。

相談できる相手が いない

周りに経験者がいないので、何が普通で、何が危ないのかが分かりません。

全部を自分でやろうとして、 途中で折れる

企画も、営業も、当日の運営も。ひとりで抱えると、必ずどこかで止まります。

主催者は、「全部やる人」ではありません。「集める人」です。
—— 人を集め、お金を集め、力を集める。それが仕事です。

C H A P T E R 2

私も、
動けませんでした。

※ こ こ は 制 作 中 で す

ゆかりさんが動けなかったころの話が、ここに入ります。

いつの、どんな場面だったか。何を見て、何を感じて、何と言われたか。

声に出さなかった気持ちは何だったか。

うまくいった話よりも、この部分がいちばん読めます。

収録お題 04 「できません」を変える言葉 / 05 協賛は「もらう」ではなく「渡す」から作ります。

※ ここは制作中です

どうやって動き出したのかが、ここに入ります。

何がきっかけだったか。誰に、何と言われたか。

最初にやったことは、具体的に何だったか。

読んだ人が「それなら自分にもできそう」と思える一歩が書けると、この資料は完成します。

24歳。3人の子どもを育てながら、 初心者のママさんチームを立ち上げました。

01

5年で、日本リーグへ

経験者はいませんでした。日本選手権3位まで行きました。

02

お金は、集まりました

収支はトントン以上。地元の企業に、何を返せるかを考え続けた結果です。

03

人も、集まりました

集客はリーグ最高水準。ひとりではなく、仲間と役割を分けたからです。

人は、集められる。
お金も、集められる。
ひとりで、やらなければ。

おまつりは、**物を売る場所ではありません。**

人が、人と顔を合わせるための

口実です。

隣に誰が住んでいるか、知らない。

子どもが、近所の大人と話す機会がない。

年配の方が、一日中、誰とも話さない。

それがふつうになった街で、

一日だけ、みんなが外に出る理由をつくる。

それが、おまつりです。

「イベントを開いた」と 「また来たいと言われるイベントを開いた」は、違います。

開いただけのイベント

- ・ 人は来たが、**主催者の顔は誰も覚えていない**
- ・ 出店者が「次は出なくていいかな」と思っている
- ・ 協賛企業に、何が起きたか伝わっていない
- ・ 終わったあと、**主催者がひとりで疲れている**

翌年、ゼロからやり直しになります。

また来たいと言われるイベント

- ・ 帰り道で、来た人がその日のことを話している
- ・ 出店者が「次はいつ？」と聞いてくる
- ・ 協賛企業に、**写真付きの報告**が届いている
- ・ 手伝った人が「来年もやる」と言っている

翌年は、声をかけるだけで集まります。

C H A P T E R 3

ゼロから開くまでの
ロードマップ

この順番で進むのが、いちばん転びにくい道です。

PURPOSE

想い

誰のための一日かを
決める

TEAM

仲間

一緒に主催する人を見
つける

FUND

お金

協賛で集める。先に
返すものを決める

PLAN

段取り

逆算して組む。安
全・お金・約束を守
る

RUN

開いて、次
へ

開く／締める／来年
につなげる

順番を飛ばすと、だいたい ③お金 で止まります。

①と②を先にやっておくと、③は驚くほどラクになります。

01

PURPOSE

想い

ここが決まっていないイベントは、途中で必ずぶれます。

そして、人もお金も集まりません。

✓ 誰のための一日かを、**ひとりに絞って決める**

✓ その人が帰り道で**何と言っていたら成功か**を書く

✓ 自分がなぜやるのかを、**ひとことで言える**ようにする

02

TEAM

仲間

共催してくれる団体を探すのではありません。

自分と一緒に主催する人を探します。

✓ **ひとりで全部やらないと、最初に決める**

✓ 最初に声をかけるのは「断らない人」ではなく「**現場を知っている人**」

✓ 役割を3つに分ける（**企画／お金／当日**）

03

FUND

お金

いちばん怖がられるところですが、
型があれば、いちばん再現しやすい工程
です。

-
- ✓ お金をもらう前に、先に「返せるもの」を書き出す
-
- ✓ 1社いくらを、何社でいくらにするかを決める
-
- ✓ 初回の訪問では、金額の話をしない
-

04

PLAN

段取り

ここを知らないままやると、
取り返しのつかない失敗になります。

✓ 開催日から**逆算して表にする**

✓ **後援・保険・写真の扱い**を、先に片づける

✓ 協賛金の出入りを**1枚で見えるように**しておく

05

R U N

開いて、 次へ

当日より、終わったあとの2週間で
来年が決まります。

-
- ✓ 当日は「自分が動く人」ではなく「**見ている人**」になる
-
- ✓ **2週間以内に**、お礼と報告を出す
-
- ✓ 来年の約束を、**終わった直後**にもらう
-

この1枚だけ、手元に残してください。

① 想い	誰のための一日かをひとりに絞る / その人が帰り道で何と言っていたら成功かを書く / なぜやるのかをひとことで言えるようにする
② 仲間	ひとりで全部やらないと決める / 現場を知っている人に最初に声をかける / 役割を3つに分ける（企画・お金・当日）
③ お金	先に「返せるもの」を書き出す / 1社いくら×何社かを決める / 初回の訪問では金額の話をしない
④ 段取り	開催日から逆算して表にする / 後援・保険・写真の扱いを先に片づける / 協賛金の出入りを1枚にする
⑤ 開いて、次へ	当日は「見ている人」になる / 2週間以内にお礼と報告 / 来年の約束を終わった直後にもらう

「こんなに面倒くさいんだ...」と思いましたか。

そうです。**面倒くさいです。**

でも、毎年おまつりを開いている人たちは、

この面倒くさを、**楽しんで**います。

終わったあとに返ってくるものを、知っているからです。

独学でいいものと、人に習った方がいいもの。

独学でいいもの

- ・ **企画のアイデア** 好きなこと・得意なことから出てきます
- ・ **SNSでの発信** やりながら、だんだん上手くなります
- ・ **当日の盛り上げ方** 人柄が出るところです

時間をかければ身につきます。失敗しても、やり直せます。

人に習った方がいいもの

- ・ **協賛営業** 断られ方で心が折れます。型がないと続きません
- ・ **安全と法務** 後援・保険・写真の扱い。知らないと事故になります
- ・ **お金の締め方** 協賛金の会計。間違えると信用を失います

独学だと、失敗が **取り返しのつかない形で返ってきます**。

私も、全部を独学でやったわけではありません。

自分で身につけたもの

- ・ 人を巻き込むこと。昔から、幹事をやるのが好きでした
- ・ 人前で話すこと。ラジオもMCも、やりながら覚えました
- ・ 企画を思いつくこと。これは好きだから続けました

迷わず、人に習ったもの

- ・ **営業の型** 11年、仕組みとして叩き込まれました
- ・ **お金の管理** 独学でやろうとして、怖くなってやめました
- ・ **安全の基準** 知らないままやるのが、いちばん怖いことです

習ったものは、いちばん早く形になりました。

※ こ こ は 制 作 中 で す

実際に関わった方の声が、ここに入ります。

出店した方／手伝った方／協賛した企業の方 から1～2件。

掲載には、ご本人の許可が必要です。お名前・写真をどこまで出すかも、あわせて確認します。

N E X T S T E P

ここまで読んで、 手が動いた方へ。

結マルシェでは、**自分の地域でイベントを開ける人**を育てる講座を準備しています。
少人数・選考制です。実際に自分のイベントを開くところまで、マルトが伴走します。

まずは話を聞いてみたい方は、**Instagram (@maruto_event) のDM**までご連絡ください。